

topic

- ■大人ってなんだろう
- 学校に行かない人は普通じゃないですか?
- ■無法者

- ■大人になる前にささやかれた言葉
- ■拝啓 おとなへ
- 空想ハピネス図鑑

hanpoは、さまざまないきづらさを経験してナガノで暮らして 複雑な思いをしているあなたに、ナガノに住む半歩先にいる人たちの 声を伝える手紙です。



とは

いま、様々なマイノリティのもとに孤独を感じていたり

つらい思いをしている10代から20代くらいのあなたへ

ナガノで様々な生き方をして暮すマイノリティ※の経験者たちが

自分たちの経験を伝えるフリーペーパー&SNSです。

な

h

お

父さ

h

ŧ

お

母さん

そうな背中を L 7 ١, る

 \bigcirc

?

寂

私 は 緒 12 t 欲 l か っ

考えさ

7

た

 \bigcirc

h a n p o で らう マイノリティ とは 12

国籍、 これらに当てはまらなくても、 人に伝えにくく理解されにくい生きづらさのことを指す。 様々な事情…etc 暮していて感じる様々な、

発達障碍、

身体障碍、

内部障碍、

L G B T Q

不登校やひきこもり、

学校や家庭の問題だけではなく、

自 お父さんも、 分の中でずっ お と思っ 母さん て い たことがあっ 先生も 口を揃えて、 た。

「だっ

て 仕

方 が

ないでしょう?」

っ て、

言葉をく

Ħ

仕

方がないっ

てなんなの?

てるの

1 伝 た L カゾ 子 ど ŧ だ から? 小 5

わ らな 7 思っ て い る

話

L

7

<

n な

١)

父さ h ŧ お 母さん ŧ

12

お 本当にそう思っ

「勉強に関することだったらお金のことは気

にしなくていいよ」

早めに結婚できれば良いね」「良い大学に入って、良い会社に入って、うよ」「このままじゃ将来は大工さんだな」「勉強しないと道路工事のおじさんになっちゃ

これまでの人生で幾度となく両親から聞いたこ

くれた。

くれた。

と何よりも子供のことを優先し、テストで良

と何よりも子供のことを優先し、テストで良

これまで家族のために働いてきた真面目な父。名だたる県内企業から軒並み内定をもらい、首席で卒業した後、就職氷河期にも関わらず県内随一の進学校から地元の国立大に入学。

日々を送っていた。
えることもなく目の前のことに全力を投じる応えられることは嬉しかったし、特に深く考もちろん両親を始めとした周囲からの期待に

専業主婦として家庭に入った母。足を運ぶなど凄まじい行動力を持っており、リカでホームステイをして以来、何度も海外にスマホもネットもなかった時代に15歳でアメ

たしかに僕と4歳下の妹は、これまで何不自由

なく育ててもらった。

れた者には侮蔑の視線が送られる。と有する人間に囲まれたコミュニティで、と有する人間に囲まれたコミュニティで、勉強や部活など様々な分野で競争を強いられる。をれが仮に自分の意思によらない、不得意な分野での競争だとしても、蹴落とされた者には侮蔑の視線が送られる。

本棚のオキグスリ

オトナからコドモヘ

子どもだった頃、大人が何を考えているのかなんかわからなかった。 だけれども、大人はいつもそばにいて、僕たちを支えてくれていた。 あの時の大人の気持ちって、何を考えていたのかな。大人と呼ばれる年齢になった 僕たちから、オトナの気持ちを知りたいあなたへ。

競争に必死に食らいつき、優等生として誰も敵 きてきた に回さないように、誰にも怒られないように生 自分も年齢が上がるに連れて熾烈になっていく

じるようになった。 にし、競争のために身を投じる人生に疲弊を感 しかし、いつからか周囲の目線や評価ばかり気

分が優位な立場にあることに無意識のうちに安 今振り返ってみると周囲から遅れを取らず、自

心していたように思える。優越感が原動力にな っていた。

企業に就職したらその先では一層激しい同期社 仮に両親の言うように、良い大学に入って良い この競争はいつか終わるものなのだろうか。 員との比較戦争が待っているのではないか。優

僕は次第に周囲と違うアイデンティティを求め 心の奥底にこのような恐れがあったこともあり、

心底感じる

かった。

越感を失い、

自分の存在が虐げられることが怖

をしている人たちに沢山出会った。 家、フリーランスなど会社員ではない生き方 た知らない世界。 るようになった。家や学校の外に広がってい 起業家やNPO職員、政治

く、、己、を生きているように感じた。 彼らは世間一般の価値観に固執することな 土俵は1つじゃないことに初めて気づいた。

それも、全く自分とは異なったアイデンティ いう肩書きを捨て、事業をつくっている。 自分は今、本来ならあるはずの。大学生, 日々を過ごしている ティだらけの人たちが集まる素敵な場所で

でも、好きな人たちと好きなときに好きな場 所で好きなことをできるのが1番幸せだと れ幅は格段に広くなった。 は多いし、人生の激動度とも言える感情の揺 たしかに既定路線を歩んでいたときより苦悩

映画

Z

1

ヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモ ーレツ!オトナ帝国の逆襲, 原恵一

本棚のオ

い大人に憧れていたんだ、 う。大人になった自分は自分の子どもにもそんな風に思うのかな。

グ #

ここでもう一度問いたい。

不幸な人たち,なのだろうか。 おじさんや、粉塵にまみれながら夏でも厚手の 真っ黒に日焼けして旗を振っている道路工事の つなぎを着て家を立てている大工さんたちは!

> ようになってきた今だからこそ問いたい。 人生の楽しみ方が一層多様化し、認められる

大人ってなんだろう。

うか。 快適な温度に保たれた室内で会社員として安定 したお給料をもらって働くことが幸せなのだろ

急速な技術革新が起こり、 渡せない現代社会。 一寸先すら明瞭に見

問い直し、その変わりゆく様を受け入れながら きっと大事なのは、これまでの。当たり前。 も自分が生まれてきた゛宿命゛を問い続けるこ を

たい。 が、せっかくなら競争以外の楽しみ方も見つけ 与えられた環境での競争に興じることも「置か れた場所で咲く」と言われるのかもしれない

本棚のオキグスリ 2

宇宙の架け橋/小椋佳

小さい頃この歌を聞いても全くピンと来なかった歌。

子どもから大人になる頃、よく考えさせられてものだ、なんで生まれてきたのだろうかって。

「勝手に産み落とされた命、意味も価値も与えられないままに・・・」

大人になった今でも、自分の価値は誰かの借り物でしかないのだと思う。

その引き継いだ価値を、他人のフンドシのように好きに振舞うのか、それを義理堅く汚さないように 生きるのか。それはやはり自分次第だ。大人になった今でもね。でも重いものを解くのも悪くない。

亲音

前号で紹介していました泥団子の課題ですが、無事に合格しまして授業の単位を取得できました (やったね)。これにより、ほでは6年間在籍した大学を卒業することになりました。 昔好きだった小説の作者さんが毎回ある がきをとんでもなく遊んで書いている方だったので、 いつ自分がこういったものを書くときには自分も遊んでやろうとす っと思っていました、でも毎回 word で構築される h anpo のこの部分を遊ぶのう。 結構無理があるんだよね。今回おきぐすりの中にも出てきているけれど、今自分の好きな ものって、昔子どもだった誰かが、大人になって僕たちに伝えてくれているものがほとん

どで、自分と思うほとんども、誰かからの借り物かもしれない。そうやって繋がって生き ているんだって思うと、今の大人たちから受け取っているものばかりだから。今回の記事 を読んでいて、つなげていくこと、受け継いで行くことはすごく大事だけど、それってー Tidy of the State 方通行じゃな いんだなっって考えさせてもらいました。いつも記事を書いてくれて No hono late to the total of th みなさんありがとう。 くさふか

TO STATE OF THE PARTY OF THE PA

あとかき 編集後記 つぼしもの

一大いなれてきれた

- 1-12-420 MANAGE VELLA STATE OF THE STATE O

一種の大くてあっただろうか

AMELIAN TO TO THE TOTAL TOTAL TO THE TOTAL The thirty of the transfer of A DE LANGE AND L STALL STANKE OF STANKE Company of the state of the sta WARRANT TO WARRANT TO WARRANT OF THE WARRANT TO THE TANK OF THE WARRANT TO THE WARRANT THE WARRANT TO THE WARRANT TO THE WARRANT TO THE WARRANT TO THE WA 1 TITLE WAR WAS LINE TO LINE T MARTINA CHARLE TO BOW SHIMMY STANDON THE CHARLES RECEIVED OF XT COMPANY TO SE Att but Mark to to the title the to the total Do So thing the the thing of th The state of the s (Une york Triggs to Tappe to The State of th K Tit was the state of the stat ******* XXIII MARKAN CAMA XXIII (XXXXIII MARKAN XXXIII MARKAN XXIII MARKAN XXI さらなられんになってるらしいけん またきのとまた想像しては大人には x,41501×2,42 想像してベナインフ

学校に行かない人は普通じゃないですか。

だけど当時の私には恐ろしり質問だった。だ疑問に思ったから出た質問かもしれなり。時々「どうしたの。」と聞かれた。その質問はた時校を早退すると、帰る途中で出会う人に

った。
「人だけ取り残されている気分だ感じられた。一人だけ取り残されている気分だが出てくるようになった。周りの声が少し遠く夏休み前からだった。学校にいるときふいに涙受校に行きたくなくなったのは中学一年生の

った。になると思っていた。だけどそんなことはなかになると思っていた。だけどそんなことはなかくのがつらい学校に行かなくなったのだから柔うになった。所詮「不登校」というやつだ。行結局、しばらくして学校にあまり行かないよ

た。

学校に通わなくなったとき、周りの大人たち

「そんなこともあるよね。」「ゆっくりやすみな。は

せう言ってくれた。その言葉で気持ちが軽くな

るわけではなりが、重くなるわけでもなかった。

要気のある言葉じゃないからこ弋私を苦しめ思っているの。」「将来のことを考えたらちゃんなことは私だってわかっていた。普通に授業をで通っているほうがいいことも、対かっている。すな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。そうな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。そうな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。そうな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。そうな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。そうな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。そうな。」と、気持ちの重くなる言葉が増えた。それにはできなかった。そんなひとは私だっていたのほとんどの人が私の未来を心配して言ってりたのほとんどの人が私の未来を心配して言っていたのだろう。 しかし、表にはできなかった。 でんないとはできなかった。 でんないとはできながいいとしている。

3

本棚のオキグスリ

音楽

BUMPOFCHICKEN/ラフ・メイカー

誰にも会いたくなくて、毎日毎日、誰も開けない自分の部屋のドアを睨み続けていた。 そのドアの向こうにいる人の顔なんて考えもしなかった。

ドアの向こうの人は自分とは違って笑ったりしているのに、なんで自分はこんな怒った顔 しているんだろ、って。ドアの向こうの人も笑ってなんかなかったって。 自分が泣いたら外の人もないて、自分が笑って見せたら、笑ってくれた。

学校に行ったほうがいりよ。」さんなことは私だ を考えられないくらい今を生きていくのが大変 だった。苦しかった。「将来のことを考えたら、 切さは私も分かっている。だけど、そんなこと くなってしまった。 うしたり。だけど私にはできなかった。できな の言葉が特に私には辛かった。もちろんその大 って十分わかっている。私だってできるならや 「中学生だから、将来のことも考えようね」や

飛び入りでもいいから文化祭に参加しようと言 のことができない自分が嫌だった。 申し訳なさでりっぱりになって「あたりまえ」 優しい言葉で一緒に行こうと言ってくれる友達。 通うことができなり。教室に入ることができな ってくれる先生。だけどどれもできなかった。 できなり。そんな私にみんな気を使ってくれる。 「あたりまえ」のことができなり自分。学校に 授業を受けることができなり。行事に参加

さんな思りが自分の中で渦巻き、

自分のことが

私の今の状態はいけないことなの。私は今惡い

ことをしているの。私は何もできない人間なの。

嫌になって苦しい日々だった。

っ た。 あんな言葉を言われる度に自分の今を否定さ れる思りだった。本当はただただ認めてほしか

私の思いを、心を。

過ごしている。 り、友達と遊びに行ったり。それなりの日々を を受けている。たまにボランティア活動をした ないけれどされでもぼちぼち暮らしている。な けして、みんながうらやむような高校生活では 結局、中学卒業した今、私は高校に通ってりる。 んだかんだ言いながらも毎日学校に通い、授業

私は過去の大人たちの言葉によって苦しんで けど、「今を生きていく」されは未来を思う以 を考えることもとても大切なことだと思う。だ 振り返ってみて、あの時周りの大人に言われ 言葉がすべて間違っているとは思わない。将来 上に大切なことだと思う。今がなければ、けし て未来は訪れなり。今を大切に生きてりこう。 た 自分に そう声をかけてあげたい

絵本

本棚のオキ グス 4

ぼくはくまのままでいたかったのに/イエルク・シュタイナ

ていいし、短気なチョウチョだってどこかにはいる。

冬眠から覚めたら、周りが人間の住む町になっていたクマのお話し。

無法者

今まで僕が生きてきた時間は 初めまして、ただの凡人です。

苦痛と汚点が色濃く残る

それを強要されて、俺が小さい頃から願ってる

「人間を辞める」という夢はより具体的に、

より執着的になった。

ピアスを数え切れないほど開けよう

タトゥーを全身に入れよう

性別をなくそう そんな些細な変化では、

人間を辞めることは出来ない。

麻原彰晃

酒鬼薔薇聖斗

アドルフ・ヒトラー

彼らは人間であり人間ではなくなった。

影響力、存在価値、後世へ語り継がれる悪徳。

ただの凡人でいる限り僕は常に死にたいと望む。 少しも生まれてきてよかったとは思わない。

もろもろ宗教も滅べ

仏の前に這いつくばって盲目のまま死ねばいい

磔と茨に犯されて火炙りにされればいい

唯一の前に無力のまま仲間割れすればいい

祈ることしか出来ないお前らは所詮

ただの人間でしかない。

もはやそれらになりきれば、僕は僕らしくなれるのだろうか。

サタニズムは僕の戒めでもある 二度とお前らの嘘には騙されない。

神も教えも普通も世間も信じない。男にもなれず、女であ

今まで受けた性的搾取、女であることが故に

る自分への嫌悪感は拭いきれず。

引き起こされた様々な弊害。

大丈夫と言い聞かせても、思っていても 想像以上にしんどいみたいだ。 反吐が出る。言葉にしようとすると涙が止まらない

僕が生きる意味はなんなんだろう。

好きなことも許されない

髪を染める、ピアスを開ける、メイクをする、オシャレをする、お金を使う、

意見を発信する、自我を持つ。 僕が愛し、大切に守ってきたものが片っ端から大人の手によって殺されて

認めたくなかった、僕の存在は、僕の考えは、僕の心は邪魔者扱いされる汚物なんだって。 奪われていく。僕はいつの間にか、何も持たない、ただの量産された価値のない人形に成り下がっていた。

本当はそんなこと一ミリも思ってないのに、毎日毎日、

麻痺した

ことある事に教師や親、社会から浴びせられる差別的、偏見と悪意に満ちた言葉によって僕の脳みそは

そうして出来上がった、言うことをよく聞き、何も考えず何も意見を言わず何も持たない社畜予備軍 メンタルは疲弊した。言葉に負けた。圧力に負けた。権力に負けた。僕は僕を守りきれなかった。

周りは「いい子」と評価した。 今まで必死に食らいついて、

自分らしく生きようともがいていた僕は無価値だったらしい。

これが日本という国が、作り出した負のサイクルだ。

これがにして。色は髭。これで開わって聞いて真正には星髪で値に辿り、神風のように、心を持たず洗脳化に置かれた人間ほど扱いやすいものは無い。

これが正しい。他は悪。 そんな自由や、個人、尊重とは程遠い道を辿り、

疲れた。早く死にたいね そう僕はいつも自分の中の自分と会話する。

自殺大国とまで呼ばれるようになった衰退していくだけの国に、世の中に誰が希望を抱くだろう。

お前たちは変わらない 俺も妥協はしない だから関わらず静かに死んでくれ。RIP

あの言葉を口にした、あの人の子どもの頃はどうだったのだろかって。 でもやれからしばらくしてから少しだけ考えた。 「そんなこともなり、こんなにも縛られて生きてりるのに。」と内心睨みつけてりた。 「子どもは自由でいいよな」というような声をかけられたことがあった。

また別の場所で、「あなた達みたいな若い子たちにこんな思いさせてしまってごめんね_

大人の言う子どもの自由って何だろう、って。

子どもは自由だといえる、あの人の子ども時代は自由だったってことだよね?

わたしの気持ちは、わたしのもの、だから気安く理解した気にならなりでほしい。 あなたの言う、「こんな思い」と今の私の思いはたぶん違うものだと思う。 という言葉をもらったこともあった。

実は十代をすこし前に踏み倒しているわたしとしては、 わたしが生きている世界はあなたから見てそんなにひどりものなの? あなたの子どもの頃はそんなに自由だったの?あなたの今は自由じゃないの? 言われてからずっと考えているのだけど

大人に対して言うことはたくさんあるけれど。

でもね、これだけはいつか言いたいと思っていた。わたしが知っている事なんて大したことじゃないんだけど。

大人のあなた達が、わたしの世界を値踏みしなりでほしり。

本棚のオキグスリ 5

映画

ぜんぶ、フィデルのせい / ジュリー・カブラス

1970年代のパリが舞台の社会映画です。カトリックの学校に通う少女が主人公。 反政府活動をしていた叔父の死をきっかけに、日常を社会主義に翻弄されながらも様々な「大 人たち」の価値観に触れて自分の信じていた価値観を疑っていく、成長の物語。 キョーサンって何?シャカイシュギって何?フィデルって誰?

「ねぇ、日曜日は家族で過ごす日じゃないの?」と少女は大人たちに問いかけるのです。

スズメバチ

あなた達大人が苦しんでいる姿もたくさん見てきているし、きっとあなた達の見ている世界とは違ったものを見ていく。わたしの世界はこれからわたしが観測していく世界だから、あなたが過ごしてきた世界と比較したもの。

でも、だからこさ、あなた達大人には、勝手に気負わずに、子どもが大人の自由を邪魔しているのもわかっている。不自由な思いをしていることは知っているし、

そんな姿をみせていた大人たちを恨んでしまうから。でないと、わたしたちは、大人になりたくないと、生きていたいように、生きていてほしい。

わたしはわたしなりの幸せを見つけて生きてきたし たぶんこれからもそうやって大人になっていく。 あなた達が言うほど不幸なんかじゃなかったよ。 あなた達が言うほど、自由なんかじゃなかったけど、 わたしの世界は、まだ辛くて泣いてばっかりだけど、 つ一つ、自分なりに悩んで、一緒に生きてりく人たちを探して、選んでりくの。

これが、オトナとコドモの境目のわたしから、あなた達に伝えたりこと、

本棚のオキグスリ 6

マンガ

無能の鷹/はんざき朝未

大人になったらかっこよく生きられるものだと思っていた。 このマンガに出てくる鷹野さんは、なんでもできるかっこいい OL さん そんな働く大人の姿に憧れて、なんて、

そんなのは全部幻想で、社会には、絶望的に仕事に向いてない人だっているんじゃないの かな?なんて思えたりして、よいギャグマンガ。

こんなおとなになりたいとこころから思えます。でてくれる。そんなおとな達が大好きです。てくれる。ただ、然るべきタイミングではちゃんと叱っんで、慰めてくれて、怒ることがあったら一緒に怒っんは、昔から「おとな」が大好きです。凄いことをし私は、昔から「おとな」が大好きです。凄いことをし

だって、誰だって自分が一番かわいいから。

7

私は「大人」が嫌いです。

ŧ

良かったと。

常識の方が正しい。そんな「常識」を押しつけてくら、年上だから、養ってるから、おまえよりも自分のだから、大人に自分の常識は伝わらない。大人だか考えないで、寄り添わないで。

が出来ていた。自分の事なんか優先しちゃいけない。そんな雰囲気る。お前は不登校だから、親不孝だから、

大人が常識外れないことをしても、それを言えない。っていた。

大人はわたしのことよ:

けない。そんなふうに、いつしかなっていた。に合わせて、機嫌を取って、自分は弱みは見せちゃいら。

る。反論してしまった自分が悪いのだと。我慢すればらまた怒られてしまう。だから、そのたびに反省すらいたくる」ときには怒ることもある。でも、怒った尽にわたしにといいわけでは無い。だから相手が理不感情的にならないわけでは無い。だから相手が理不

同士で喧嘩する。 大人は子供のことなんて考えないから、平然と大人

本棚のオキ

のも遅くなる。子供よりも自分を優先するから。だから帰ってくる子供のことなんて考えてないから、浮気もする。そしてそのたびに泣く。子供の前なのに。

子供の前で。そしてそのことで、また大人同士で喧嘩をする。

マンガ

グスリ

異国日記 / ヤマシタモトコ

中学の時代も高校の時代もわたしの姿はきっと他人から植え付けられたものだった。 誰かに、無心に踏みにじられていた客観。 このマンガの「わたしは決して あなたを 踏みにじらない」

> その言葉に強く胸を打たれて、この本を読み進めている。 わたしの主観で。

に住むなんていう沢は無かった。 選ぶかの選択もあった。お父さんとお母さんが一緒 当然、お父さんと、お義父さんとお母さん、どっちを

でも、そんな二択、どっちも望んでる訳はない。 だって、これで親たちは幸せになれると思ったから。

なんか、考えないで。

知らない男と同じ生活をしなくちゃいけない。

お母さんを選んだら

パソコンにずっと向き合ってるだけ、 お父さんを選んでも、家事はしないし、自分を見て くれる訳でもない。

だから、お母さんを選ぶしか無かった。 のだ。でも、わたしは機嫌を取らないといけない。 まだ自分も妹も子供なのに、そんな選択を迫られた

現実はそんなに甘くは無かった。 無くなると思った。これで平和になると思った。ただ、 お父さんとお母さんが同棲をやめて、これで喧嘩が

るようになったのだろう 最初こそ良かったけど、だんだんとイライラを感じ

愚痴をわたしにしてくる。別れた方がいいかもとか、 供のことは何も考えないで喧嘩をする。しかも、その 喧嘩が増えた。ご飯も作らず、洗い物もしないで、子 お義父さんを私に付き合わせてて可哀想とか、そん

そんな大人は

大嫌いです

匿名

なことを言ってくる。わたしだってまだ子供なのに。

いとお母さんが壊れるかもしれない。私が聞かない でもそんな愚痴を聞けるのは私しかいない。聞かな 痴に付き合う。良い子の自分を装う。自分の気持ち と妹に愚痴ってしまうかもしれない。だからその愚

思ったのに、けれども、私の心が満たされることは 無かった。どんどん仮面を取り付けて行って、 な幸せになると思ったのに、私の心は満たされると いつからこんなになってしまったのだろう。わたしは 本当の私の心がなんなのかは、もうわからない。 ただ、幸せを望んだだけなのに。良い子になればみん

8

拝啓 大人へ

なになりたいと、こころから思えます。でもわたしは れる。ただ、然るべきタイミングではちゃんと叱って 慰めてくれて、怒ることがあったら、一緒に怒ってく めてくれて、悲しいことがあったら一緒に悲しんで、 わたしはおとなが大好きです。凄いことをしたら褒 自分勝手で、子供のことを見てくれない、 くれる。そんなおとな達が大好きです。こんなおと

小說

本棚のオキ

『おおきな木』

シェル・シルヴァスタイン・訳

両方に似ているかもしれません。 あなたは木であ (村上春樹/訳者あとがきより) また少年であるかもしれません。」

なりたい姿になっていいって言われたのだけど、

わたしは自分の姿をまだ知らなり

大人と同じ姿になるのを夢見ていたけれど

同じになんかれるわけないし、 わたしが大人の姿になったとき、

せもせも違う生き物かもしれない。

その姿が正しいとは限らない、

Created By しおあじ

「hanpo」のその他の情報や記事の続き、詳しいイベント情報は ⇒のQRコードの先

「hanpo」note 版に記載されています。挿絵イラストとか 記事を書いてくれる方を募集中興味のある方は連絡ください。 また、ご意見ご感想あと寄付とかカンパとかお待ちしてます。



―ご寄付のお願いー

これからもより多く、半歩先の声を届けるために寄付をお願いします。

<寄付振込先>ゆうちょ銀行

あなたとはきっと違うカタチの、

わたしの姿

わたしが大人になったとき、

憧れの姿はもう時代遅れかもしれない

わたしがなれるのは、

わたしが進んだ先にある姿

まわりの大人たちの姿に憧れるけれど、

<振込先口座名> hanpo ハンポ

<口座記号番号> <店名> 059店 <当座> 00510 - 5 - 0053632

-お問い合わせ連絡先-

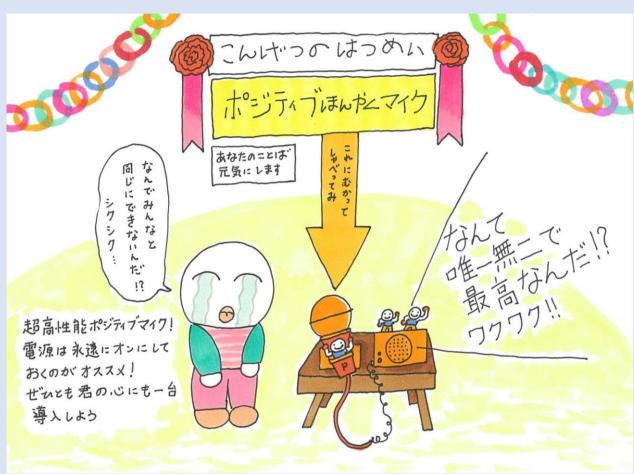
hanpo 編集部 Email hanpoedit@gmail.com

◇Twitter @hanposakino

♦Facebook hanpo

♦note hanpo





hanpo

ナガノで暮すマイノリティを生きる僕らのために、僕らが作るフリーペーパー

◇発行 hanpo 編集部 ◇後援 長野県

共催◇上田映劇◇みんなのお家すまいる◇ブルースカイ◇長野県チャイルドライン推進協議会